

## コロンビア貿易振興局日本事務所 (PROEXPORT COLOMBIA)

### コロンビアが投資促進事務所を日本に開設

コロンビア政府は、国際市場参入戦略の中で、アジア・太平洋地域に大きなウエイトをおいています。その戦略の一環として、今年、プロエクスポート・コロンビア（投資・輸出・観光振興を担当する政府機関）は、日本に事務所を開設しました。設立の目的は、日本において、対コロンビア投資を振興し、さまざまな経済セクターでビジネスチャンスを見出す投資家を支援することです。

安定したマクロ経済状況と成長を示すコロンビアは、優れた投資先となる条件を備えています。プロエクスポート・コロンビアは、専門的かつ詳細なアドバイスを通じて、外国企業をサポートしています。提供する主なサービスには、外国投資家向けの情報提供、パブリックセクターと民間セクターの橋渡し、既存投資家へのサポート、コロンビア出張時の面談サポートなどがあり、これらのサービスはすべて無償で行います。

今年、スタンダード・アンド・プアーズ、ムーディーズおよびフィッチ・レーティングスといった世界の主要な格付機関が、コロンビア国債の格付けを引き上げました。これは、コロンビアの対外支払い能力と財政指標の改善が評価されたものです。スタンダード・アンド・プアーズは「コロンビア経済は、外的ショックに対する耐性を示しており、中期的な経済成長の見通しも良好である」と述べています。

2050年の世界経済成長予測に関するHSBC（The Hong Kong and Shanghai Banking Corporation）の報告書によると、コロンビアは、2050年時点で、世界で第26位の経済規模にまで成長し、世界トップ30圏内に入ると予測されています。GDP規模の拡大もさることながら、同報告書は、1人当たりGDPの伸び、良好な人口動態と投資環境などの指標からも、コロンビアの躍進を有望とみています。「人口動態の追い風を受けるラテンアメリカは高水準の成長が見込まれる。なかでもコロンビアは、域内最高の成長

が予想される」（「2050年の世界経済－予想される変化を定量分析」HSBCグローバルリサーチ、2011年1月）。

2009年には金融危機のさなか、世界のGDPが2.1%減少したのに対し、コロンビア経済は1.5%のGDP成長率を示し、2010年にはさらに4.3%となりました。これは世界経済の成長予想3.4%を超えるものです。わが国の外貨準備高は、過去最高の284億ドル、インフレ率は過去最低レベル（2010年3.2%）であり、これはラテンアメリカの最低水準となっています。

コロンビアは、購買力平価（PPP）を適用すると、世界で28番目という大規模エコノミーであり、ラテンアメリカでは第4位となっています。経済協力開発機構（OECD）非加盟諸国の中では、最大の経済国のひとつです。1人当たりGDPは過去6年間で倍増し、2004年の2482ドルから2010年には6136ドルとなりました。人口は4690万人で、ラテンアメリカでは3番目に人口が多く、世界では第24位、スペイン語圏では第2位です。

お問い合わせは、コロンビア貿易振興局日本事務所（プロエクスポート） 代表 和合ヒロシ（コロンビア大使館、〒141-0021東京都品川区上大崎3-10-53、TEL：03-3440-6451、FAX：03-3440-6724、E-mail：hwago@proexport.com.co、Webサイト：www.proexport.com.co）まで。

